

第 78 回 九州山口薬学大会参加報告書

託麻中央薬局 井上 晃博

開催地・期日：

シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）2017年9月17~18日

興味深かった演題：

「薬剤師の展開するキュア・ケア志向の在宅医療について」

中野 一司（医療法人ナカノ会理事長）

今後我が国の医療体制を、病院中心から地域=自宅を中心とする体制に向けて、変更することが宣言された。この背景としては完治が難しい慢性期疾患、すなわち高血圧や糖尿病、骨粗鬆症、心臓病、脳卒中、癌、認知症など複数の病気を抱え、日常生活において支援が必要な高齢者が年を追うごとに増えてきたことが挙げられる。この慢性期疾患の患者さんに対しては、治療優先=キュア志向のみを頼りにするのではなく、自宅などで患者さんの生活を支え看守る=ケア志向の在宅医療や介護サービスなどを上手に使いこなすことが、より快適で豊かな日々を送れるのではないかと思われる。事実、生活に支障をもたらしているのは病気なのか、それとも加齢による障害なのか、よく分からないままキュア志向の病院医療を受け、患者さんの生活の質は一向に改善・向上しないというケースが後を絶たない。したがって、超高齢化社会で必要とされているのは、患者さんの生活面も含め、病気や障害を一人の人間として丸ごと診るケア志向の在宅医療である。

感想

今回、初めて九州山口薬学大会に参加し様々な演題、シンポジウム、ポスター発表を閲覧しました。なかでも、この「薬剤師の展開するキュア・ケア志向の在宅医療について」を聞き、今後の在宅医療の必要性とその意義について再認識することができました。今現在では、中野氏が発言されたキュア志向=治療優先がまだどこの医療機関でも多いと思います。しかし、将来的には医療費の問題や超高齢化社会の到来によってケア志向=在宅医療などで患者さんの生活を支え看守ることが中心となると思います。このランチョンセミナーで、一番驚いたことは、80歳や90歳以上高齢者の方に対して降圧薬や骨粗鬆症の薬は不必要であるという意見があがっていることです。血圧が高い状態であってもその生活は維持できており、逆に降圧薬が効き過ぎることでふらつきが起きやすくなり転倒、骨折などといったQOLに問題が生じている患者さんが少なくないそうです。この事例も、キュア志向よりもケア志向に注目を当てることで解決することができます。

これからの業務では、キュア志向も大切ですが、特に高齢者の方に対してはケア志向の視点も取り入れて処方せんを見るように心がけます。そして、患者さんにとって本当に良い医療を提供できるように日々努力していきたいと思えます。